



グループピング

解法テクニックの一部を大公開!

問題 予備試験H23 [民法・商法・民事訴訟法] 第25問

株式会社を各当事会社とする合併に関する次のアからオまでの各記述のうち、正しいものを組み合わせたものは、後記1から5までのうちどれか。(解答欄は、[No.27])

ア. 吸収合併の場合、いわゆる合併差損が生ずる合併は、することができない。

イ. 吸収合併の場合、存続会社は、消滅会社の株主に対し、合併対価を何ら交付しないこととすることができる。

ウ. 吸収合併の場合、消滅会社の解散は、吸収合併の登記の前でも、悪意の第三者に対抗することができる。

エ. 新設合併の場合、新設合併契約を承認した消滅会社の株主総会の決議に瑕疵があることを理由として新設合併の無効の訴えを提起するときは、設立会社を被告としなければならない。

オ. 新設合併の場合、設立会社を株式会社としなければならない。

1. ~~ア~~ ~~イ~~ 2. ~~ア~~ ~~ウ~~ 3. **イ** **エ** 4. **ウ** **オ** 5. ~~エ~~ ~~オ~~

iv 消去作業2
2択(イウエオのどれかの正誤判断)

iii 消去作業1 同じグループの肢で固まっている選択肢を消去



多数決→争点整理

問題 司法試験H27 刑法10問 (予備試験H27 [刑法・刑事訴訟法] 第8問)

(問題本文、略)

1. ~~1~~ **1** a 2 c 3 e 4 h 5 j 6 k 7 n 8 p 9 q
2. **1** b **2** c 3 e 4 h 5 j 6 l 7 m 8 p 9 q
3. ~~3~~ **1** a 2 d 3 f 4 g 5 i 6 l 7 n 8 p 9 q
4. **1** b ~~2~~ d 3 f 4 g 5 i 6 l 7 m 8 o 9 r
5. **1** b **2** c 3 e 4 h 5 j 6 l 7 m 8 o 9 r

i 多数決

ii 争点整理

「多数派」を残し、「少数派」を消去

解法

i キーワード抽出

アからオまでの各記述中の2・3個の記述に同じフレーズがあるものを探す。

→ 本問では、冒頭が「吸収合併の場合」と「新設合併の場合」

※「設立会社」も可。以下、同じ解法になる。

ii グループピング

上記iの「吸収合併の場合」のグループと、「新設合併の場合」のグループに分ける。

→ 本問では、**アイウ**と**エオ**

iii 消去作業1

同じグループ同士で固まっている選択肢を消去する。

→ 本問で、選択肢1・2は**アイウ**のグループ、選択肢5は**エオ**のグループ同士で固まっているので、これらの選択肢を消去すると、選択肢3・4が残る。

iv 消去作業2 (上記iiiで消去される選択肢が3つある場合)

残る選択肢の2択だが、どれか1つの記述の正誤が分かればよい。(「このような場合、残り2つの選択肢は、いずれも正しい肢(○○)かいずれも誤った肢(××)となる傾向がある。)

→ 本問では、選択肢3・4の2択に含まれるイウエオの記述のうち、エで「消滅」会社を被告とすることができないのでは…という点に思いが至れば、「設立会社を被告としなければならない」とする記述が「正しい」と考えられる。

v 正解は3となる。

解法

i 多数決

① 多数派**b**が正しい傾向

→ 少数派**a**を含む選択肢1と3を消去する。

② 残る選択肢2・4・5での多数派**c**が正しい傾向

→ 少数派**d**を含む選択肢4を消去する。

ii 争点整理

残る選択肢2と5は③e④h⑤j⑥l⑦mで争いなし。

→ “争点” ⑧p対⑨oと⑨q対rを検討。

→ ②c、⑥lを前提とすると、[記述]の日本語的に⑧o、⑨rが正しい。

iii 正解は5となる。